

# 戸木田嘉久教授退任記念論文集 の刊行にさいして

経済学部長 川 本 和 良

戸木田嘉久先生は1989年3月末日をもって定年により立命館大学教授の職を退かれます。先生は1962年4月より27年の長きにわたり立命館大学と経済学部の発展につくしてこられました。先生の多大の御功績をたたえ、ここにささやかながら御退任記念論文集を『立命館経済学』に特集することとしました。

先生は1924年に福岡市にお生まれになり、1947年に九州帝国大学法文学部経済学科を御卒業後、財団法人九州経済調査協会と九州産業労働科学研究所勤務を経て、1962年に立命館大学経済学部助教授に御就任になり、1965年以降教授として労働問題および労働組合論を担当してこられました。

先生の御研究の出発点は大学御卒業後の前記協会と研究所時代の調査研究により築られました。先生は敗戦後の食糧難時代に供出制度や租税負担が農家経営に及ぼす影響の調査研究を皮切りに、研究の重点を筑豊の炭鉱労働者の実態調査研究へと移されました。石炭産業は1946年末の傾斜生産方針により経済復興の最重要産業の一つとして資金、資材の優遇を受けましたが、1958、59年に燃料源を石炭から石油に移行させ、高度成長に転じる過程で合理化を強要され、多くは廃坑となりました。この過程での炭労と中小炭鉱労働者の辿った運命を目前にしての調査研究が先生の御研究の出発点でした。

先生は数多くの著書、編著、共著、論文を発表してこられました。その精髓は『戸木田嘉久著作集』（労働旬報社、全5巻）として刊行されつつあります。第1巻『日本の労働組合運動』、第2巻『賃金「合理化」と労働運動』、第3巻『労働運動と国民生活』、第4巻『戦後史における労働運動』、第5巻『労働運動の理論的諸問題』の表題が示すように御研究の対象は労働組合、賃金、合理

化、国民生活等多方面にわたり、かつ実証的なものから理論的なものにまで及んでいます。1984年に『現代資本主義と労働者階級』（岩波書店、1982年発行）により立命館大学経済学博士が授与されました。先生の御研究はいずれも貴重なものばかりですが、とくに敗戦から高度成長期に至る過程で筑豊炭鉱とそこでの労働者の辿った運命についての御研究は間違いなく後世にまで残るものと思われまます。

先生は以上の御研究を基礎に教育にも情熱を注がれ、就中経済学研究科において数多くの研究者を育成され、これら戸木田門下生が全国の大学で教育に従事し、秀れた研究業績を輩出しつつあります。

先生はまた立命館大学と経済学部の役職面でも卓越した業績を残されました。1969年度学生部長、72～73年度人文科学研究所長、76～77年度経済学部長、79年度教学担当常務理事、85～87年度副学長、教学担当常務理事を歴任されました。高度成長末期の学園紛争期から73年、79年の二度のオイルショックによる低成長期を経て国際化、情報化の進展する今日までの激動する時代における、また末川総長の晩年から武藤、細野、天野、谷岡といった戦後立命館の歴代総長の時代を貫ぬく立命館学園の歴史は先生のお名前を抜きにしては語れないと思います。

先生は対外活動においても社会政策学会幹事、土地制度史学会評議員を現在も勤められており、経済理論学会会員、日本科学者会議会員としても御活躍中です。

先生は以上のように研究、教育、学内役職、対外活動と凡そ大学教員の果さなければならぬ四つの分野において卓越した業績を残してこられました。先生が経済学部を去られますいま、惜別の情ひとしおであります。今後とも後進への御指導をよろしくお願い申し上げますとともに、御健康と御研究のいっそうの御発展とをお祈り申し上げて、先生をお送りする言葉とさせていただきます。

1989年2月